

## 北海道立林業試験場の 新しい組織機構

当場は、昭和32年に林木育種事業を推進するため設立された岩見沢林務署光珠内事業所を前身とし、39年には育成林業全般にわたる試験研究機関として改組されました。以来、技術開発に対する行政ニーズに対応し、研究・普及体制の強化を図り、森林・林業に関する試験研究および技術指導を実施してきました。

しかし、最近の森林・林業をめぐる厳しい状況を打開しつつ、林業生産コストの低減および森林の有する公益的機能の発揮に対する道民の多様な要請に応えていくためには、行政施策の充実・推進とその展開の基礎となる技術開発のための試験研究を緊急かつ強力に推進することが必要となってきました。

このような強い要請に対処するため、北海道新長期総合計画と林業試験場庁舎等整備検討会議の報告等の趣旨に基づき、林業試験場を時代に即した森林・林業の総合的な研究・指導センターとして機能するよう、平成元年4月に、次の視点から組織機構を表のとおり再編整備しました。

- 1 広範な分野にまたがる研究・技術開発の企画調整機能の強化
- 2 研究・技術に関する情報管理体制の強化
- 3 林業経営の省力化・コスト低減に関する部門の強化
- 4 バイオテクノロジー等の先端技術に関する部門の強化
- 5 開かれた試験研究機関としての指導・研修体制の強化